

## 重症化を防ぐためのむくみのセルフケア

横浜労災病院 乳腺外科 部長

千島 隆司 先生

横浜労災病院 看護部  
リンパドレナージ外来看護師

田上 砂織 先生



## がん治療で起こる「むくみ（浮腫）」とは？

がんの治療中に、腕や脚がむくむことがあります。これを浮腫（ふしゅ）といいます。浮腫は、腫瘍（しゅよう）の進行や転移が原因となるものの他に、全身に生じる抗がん剤の副作用や、手術部位などの局所に生じるリンパ管閉塞など、さまざまな要因で発生します。

がん治療を受けるすべての患者さんが発症するわけではありませんし、症状の程度もさまざまなので、医師と相談しながらご自身に合ったケアを見つけていきましょう。

## 浮腫の原因

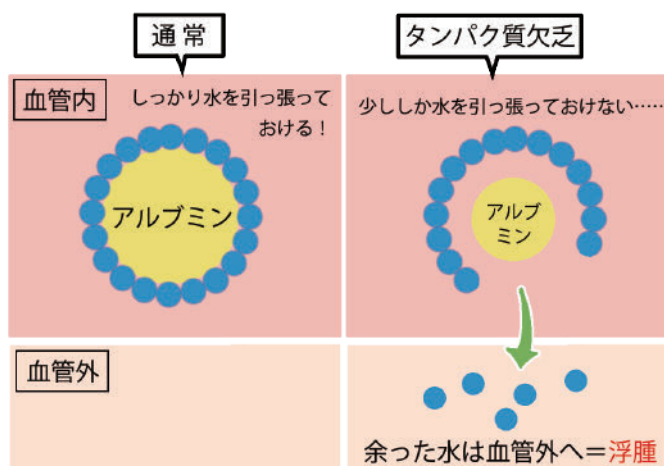
## 全身性浮腫

## 抗がん剤によって起こる「薬剤性浮腫」

抗がん剤の影響で、血管内から出た水分が、皮膚と皮下組織内にたまることで、全身にむくみが生じます。ドセタキセルなどのタキサン系抗がん剤で起こりやすいと言われています。

## 低栄養によって起こる「低タンパク性浮腫」

主に肝臓で作られるアルブミンというタンパク質には、血管の中に水を保持する働きがあります。栄養状態が悪くなり、タンパク質の摂取不足になると、アルブミンが減少して血管内の水が外へ漏れ出し、全身にむくみが起こります。



## 局所性浮腫

### 手術に伴う「リンパ浮腫」

全身の皮膚のすぐ下には、網の目状に張り巡らされたリンパ管があります。この中を流れるリンパ液は、体内で不要になったタンパク質などの老廃物を運んでいます。

リンパ液は、リンパ管の中をとおって、リンパ節に流れ込みます。リンパ節は、細菌や異物が血管内に侵入しないよう捕捉（ほそく）する役割を担っています。一部のがん細胞も、このリンパ管を通して転移を起こすと考えられています。

手術によりリンパ節を切除すると、リンパ液の流れが悪くなり、タンパク質が皮下にたまり、その周辺（局所）に浮腫（むくみ）が起こります。タンパク質がたまり続けると、次第に周囲の組織に変性や線維化が起こり、進行すると皮膚が硬くなっていきます。

